

<%Name%> 様 誤字があったので修正しました。

☆LCAF (エルカフ) 通信☆ No.100 2026年5月5日号

ゴールデンウィークです。本来は過ごしやすい時期なのですが、今年は特に寒暖差が激しいようです。体調に気をつけましょう。

記念すべき100号なので「特集号」にしようと考えていたら、前号(3月27日発行)からひと月以上たってしまいました。100号記念はまた改めて考えます。

/// I N D E X ///

- ・ ISO 関連解説-----GHG プロトコルと ISO の協調は可能か？
- ・ LCA の実務 mini 42---マスバランスでの算定を繰り返すと結果は？
- ・ LCAF からお知らせ---オンライン初級研修がもうすぐです
- ・ 編集後記-----5月と言えば

#### ■■ ISO 関連解説 : GHG プロトコルと ISO の協調は可能か？ ■■

組織のカーボンフットプリント (CFP) と言われている ISO14064-1 と GHG プロトコルの Scope3 基準の改訂が進んでいます。この両者を一緒にして、ISO と GHG プロトコルの共通の規格としてダブルロゴで発行することが計画されています。

4月20日から3夜連続でGHGプロトコルの担当者が、ISOの14064-1のワーキンググループに説明するオンラインがありました。前号で紹介したロケーションベースとマーケットベース、およびGHG排出削減効果の報告方法が説明されました。

私が「日本では再生可能電力を購入するマーケットベースの電力が浸透している。ロケーションベースを必須とすると、この規格を使えない企業が多くなる」とコメントしたら、GHGプロトコルの担当は「ロケーションベースは必須です。ロケーションベースで算定できない企業はGHGプロトコルに準拠していると言わなければ良い」と回答していました。(英語での議論なので、私の理解での説明です。)

GHGプロトコルが民間の活動である限りはこの回答で良いのですが、ISOとの共通の規格としては、このGHGプロトコルの回答はNGだろうと思います。国として参加して発行しているISOは、多くの企業が使える規格でなくてはならないからです。つまりは、ISOの精神と、民間団体であるGHGプロトコルの姿勢のすり合わせができていないと感じます。このギャップが埋まらないとダブルロゴでの発行は困難ではないでしょうか。今後も目が離せません。

#### ■■ LCA の実務 mini 42 : マスバランスでの計算を繰り返すと結果は？ ■■

マスバランスモデルにより、たとえばバイオマス 100%という表示が行われるようになっていきます。具体的には、バイオマスの発酵で得たエチルアルコール 100kg と石油から製造したエチルアルコール 100kg を混合すると理論的には約 120kg のエチレンができることとなりますが、そのエチレン 60kg をバイオマス 100%と表示する方法です。実際にはバイオマスからの炭素は 50%しか入っていません。

このエチレン 60kg と石油から作ったエチレン 60kg でポリエチレン 120kg を作ると、マスバランスモデルによる算定ではその 60kg をバイオマス 100%と表示することになります。しかし実際にはバイオマス由来の炭素は 25%しか入っていません。

このポリエチレン 60kg と石油系ポリエチレン 60kg でレジ袋 120kg を作ると、その 60kg をバイオマス 100%と表示することになります。しかし実際にはバイオマス由来の炭素は 12.5%しか入っていません。

このレジ袋 60kg と石油系レジ袋 60kg を集めてポリエチレンの再生繊維を作ることになります。するとその 60kg をバイオマス 100%と表示することになります。しかし実際にはバイオマス由来の炭素は 6.25%しか入っていません。

マスバランスモデルの適用は最初のプロセスだけで議論されることが多いのですが、これを繰り返すと、上に示したように、最初に指定した「特定の特性」の割合が少なくなります。

マスバランスモデルの使用は「グリーンウォッシュ」であると言う根強い批判があります。LCA

用のデータベースとして知られる「エコインベント」の創始者である私の古い友人から「スイスでは建材の LCA の計算にマスバランスモデルの使用を禁止した」というメールが来ました。ISO14077 (LCA への CoC モデルの適用) の作成も進められています。「グリーンウォッシュ」と言われない使い方を示すことができるかどうか今後のポイントです。

■■ LCAF からのお知らせ：オンライン初級研修がもうすぐです ■■

○今年度最初の初級研修と初級検定の日程です。

・LCAF オンライン初級研修：第 1 回；5 月 13 日（水）と 5 月 14 日（木）の午前中です。

・LCAF オンライン初級検定：6 月 13 日（土）

以下からお申込みください。

<https://lcaf.or.jp/education/>

○参考図書「基礎から学ぶ LCA～LCA の実施と活用～」の第 4 刷を発行しました。

特に「第 12 章：LCA と国際標準規格」に最近の ISO の発行状況を反映しました。

以下からお申込みください。(3,000 円+税+送料) です。

<https://lcaf.or.jp/education/textbook/>

○[再掲です] グリーンウォッシュの本を和訳しました。

・「地球にやさしい？ー偉大なるグリーンウォッシュ」3,190 円（税込）です。

■■ 編集後記：5 月と言えば ■■

ゴールデンウィークですね。私が大学生になったのは 1972（昭和 47）年です。その頃は、連休前は国鉄（今の JR）や私鉄の春闘（いわゆる順法闘争：ストライキですね）で電車が動かなくなるのが毎年のことでした。東大駒場地区への通学には京王電鉄を使うのですが、ストライキで電車が止まると、定期券が使えない補償として京王線全線に使える切符を一日につき 2 枚くれました。ストライキが 2 日続くと 4 枚手元にあることになります。さて、この切符の使い方ですが。。。

クラスの中で元気な男子が女子大に「合ハイ」の申し込みに行くのです。京王電鉄をどこまでも乗れるわけなので、当然行き先は終点高尾山です。我々男子が乗り放題切符を 2 枚女子に提供して、高尾山に「合同ハイキング」です。当時はコンビニもないので、女子はお弁当を作ってくれるのが決まりでした。30 人くらいの大学生が高尾山で「ハンカチ落とし」をやるのですから、今の人には「キモイ」ですね。それにしてもスマホもラインもない時代に、「合ハイ」の連絡はどうしていたのか思い出すことができません。駅に「伝言板」があって、「〇〇君へ：〇〇に先に行く」と書かれていた時代です。

私が通商産業省の研究所に勤め始めたのは 1981（昭和 56）年で、国公労連の春闘がまだ健在でした。つくばでメーデー集会とデモ行進がありました。その時の帽子を今でも庭掃除に使っています。

国鉄が民営化されたのは 1987（昭和 62）年です。ストライキで電車が止まることもなくなりました。「合ハイ」もないでしょう。仲間を作って集団で何かをすることが少なくなったと思います。高尾山もインバウンドで混雑と聞きます。「ハンカチ落とし」で遊ぶ場所もないようです。

(LCAF 理事長 稲葉 敦)

---

ご意見、ご感想、この「LCAF 通信」の配信停止のご連絡はこちらまで

[lcaf-contact@lcaf.or.jp](mailto:lcaf-contact@lcaf.or.jp)

---

一般社団法人 日本 LCA 推進機構

Japan Life Cycle Assessment Facilitation Centre (LCAF)

(エルカフと呼んで(読んで)ください)

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-10-2 渡辺ビル 5F

電子メール：[a.inaba@lcaf.or.jp](mailto:a.inaba@lcaf.or.jp)

電話：090-1423-0863

URL：<http://lcaf.or.jp/>